



虹っ子だより

家庭数

北本市立中丸東小学校

7月号 令和8年6月26日

やさしい子

たくましい子

進んで学ぶ子

な

か

ひ

が

「間違えても大丈夫」が育てる無限の可能性

校長 岡安 栄一

子どもの頃、鉄棒の逆上がりで「お腹を鉄棒に引きつける」というコツを掴んだ途端、くるりと回れるようになった思い出はありませんか。そして、そのコツを応用して、いつの間にか「空中逆上がり」までできるようになった、という経験を持つ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

学習もこれと同じです。学習には、いくつかの「レベル（段階）」があります。

- ・ レベル1（学習Ⅰ）： 問題の「正解」が分かる。
- ・ レベル2（学習Ⅱ）： 解き方の「コツ（方法）」が分かり、それを他のことにも応用できるようになる。

一般的なテストで正解を得る（レベル1）ことも素晴らしいですが、本当に大切なのは、逆上がりのコツを空中逆上がり活かしたように、「自分でコツや方法を見つけ、別のことにも応用していく力（レベル2）」のこの力が身につくと、児童の可能性は無限に広がっていきます。

この「コツや方法を掴む力」を育てるために、本校では東中学校区で共通して取り組む「授業6原則」に基づき、授業の中で2つのアプローチを行っています。

① 自分でじっくり考え、コツに気づく（内発的な学び）

授業中に「自分で解決する時間」をとり、ただ問題を解くだけでなく「もっと良い方法はないかな？」と探る力を育てています。

② 話し合いを通して、友達の良いところを真似する（外発的な学び）

本校で重点的に取り組み、大切にしているのはペアやグループでの話し合いやクラス全体で意見を出し合う時間。例えば、環境について調べている時に、友達から「図書室のあの本が役に立ったよ」「博物館のあの展示が面白かったよ」と教えてもらい、「なるほど、そうやって調べればいいんだ！」と真似してみるのも、立派な学びのステップアップです。

本校では、授業の最後に行う振り返りを「わ・か・さ・ぎ」と呼んでいます。ペーパーテストでは見えにくい、児童の「コツや方法を掴む力」や「心の変化」が、この振り返りにはたくさん詰まっています。

自分で新しいコツや方法を掴むためには、時には「今までの自分のやり方を変えること」や「間違えること」も必要です。だからこそ大切なのは、児童一人一人が「間違えても大丈夫」と安心してチャレンジできる教室の雰囲気です。

今後も、相手の気持ちを受け止める「共感」と、お互いの意見を大切にする「折り合い」を兼ね備えた「やさしい子」の育成を目指しながら、児童が安心してステップアップしていけるよう、日々の授業の工夫に努めていきます。

